＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 評価基準研究所

②施設・事業所情報

名称： 溝口ピノキオ保育園		種別： 認可保育所	
代表者氏名：施設長 永井十朱		定員（利用人数）： 60 名	
所在地： 川崎市高津区溝口3-24-5			
TEL： 044-712-5301		ホームページ：https://seido-kai.com	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 2020年 4月 1日			
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 正道会			
職員数	常勤職員： 17名	非常勤職員 １０名	
専門職員	（専門職の名称）		
	保育士(内９名は非常勤) 21名	管理栄養士(常勤) 2名	
	事務員(常勤) １名	栄養士(内１名は非常勤) 2名	
	看護師(常勤) 1名		
施設・設備の概要	建物形態：木造2階建て		
	保育室：1階フロア・2階フロア	トイレ：こども用２室・職員用３室	
	事務室：（ 21.42 ㎡）	調理室：（ 23.01 ㎡）	
	園 庭： 有		

③理念・基本方針

「共生と共学」～社会で個を育み、個が社会と繋がっていく～

④施設・事業所の特徴的な取組

地域子育て支援事業（子ども食堂・園庭開放）

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年 8月１日（契約日） ～ 2024年 1月１１日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

<u>１）理念が職員全員に浸透するよう様々な取り組みを行い、子ども主体の保育の実現につなげている</u>

理念は園が目指す方向を示すものであり、職員がその方向を正しく理解することが大切である。当園では職員の理念が進むよう、様々な機会を通じて理念に触れ、方向性を確認することができるようにしている。法人としてSEIDOKAI ROADで方向性を示し、正道会のガイドライン、正道会のクレドによって自己の点検をできるツールが用意されているが、それを活用する園の力が求められるところである。当園ではそれらを積極的に活用し、また研修ツールを使っての理念の浸透も図るなど、職員全員の理解を進めることに力を入れている。そのような取り組みによって職員の目線が揃

い、子どもの主体性を大切にした保育が行われることにつながっている点は、当園の大きな強みである。

２）コミュニケーション・連携に対する意識の高さが実際の取り組みに表れている

保護者とのコミュニケーションのツールを十分に活用しているだけでなく、送迎時の短い時間でも的確にコミュニケーションが取れるよう、連絡ボードの書式を工夫している。アンケート配信も頻度を多くしたり様々なタイミングで実施したりと、現状に満足しない姿勢がうかがえる。アンケートをきっかけに保護者との「対話」が始まるよう次につなげる姿勢は非常に模範的である。このような取り組み姿勢は職員全体にも表れ、話しかけやすい雰囲気が園全体を包み込んでいる。これらの基本的姿勢によって保護者からの意見や相談は集まりやすくなり、今後も保護者との連携や利用者の満足向上につながっていくに違いない。

３）環境設定のスピード感と柔軟性が子どもの発達に良い刺激となっている

保育室の遊びの環境は常に流動的であり、子どもたちの姿をよく観察しながら設定していくのはスキルと経験が必要なことである。環境設定の変更というと遊びのゾーニングを入れ替えるだけと捉えてしまいそうだが、そこには複雑な要素が絡んで難しく、時間がかかることも多々ある。事前に打ち合わせをしているとはいえ、会議の後に短時間で効率よく新しい遊びの環境を設定するには、職員間のコミュニケーションの良さ、業務スキル、それからリーダーシップなど多様な要素を含んだバランスの良いスキルがプラスに働いていてこその成果であろう。環境設定にも本園の良さが十分に発揮されることを踏まえると全体の運営の良さが見えてくる一面もあった。当然それは子どもたちの遊びの発展に良い効果を生むため、このスピード感と柔軟性を更なる強みにしていってほしい。

◇改善を求められる点

１）取り組みを充実させる一方で優先順位を考え、やめることも決め、業務のバランスを取ることも検討してもらいたい

社会の変化や地域のニーズに合わせて子ども食堂をスタートさせたり子育て支援の取り組みを強化したりと、新たな取り組みを速やかにスタートさせる実行力は当園で強みである。そのようにスピード感のある運営は今の時代は特に重要なことであるが、そのことによって現場で行う業務が増えているのも現状であると思われる。新たな取り組みを検討することと同じくらい、優先順位の低い取り組みをやめる検討をし、全体のバランスをとっていくことも重要である。課題に対して素早く改善策を立てて強力に進めていく柔軟な思考が根付いている点も当園の強みであるため、園長がリーダーシップを発揮して優先順位を考えた業務軽減についても検討を進めてもらいたい。

２）子どもが自分の力を試す機会をみまもる関わりを期待したい

子どもに対する思いが強いからこそ起こりやすい子どもへの関わりだと捉えているが、大人主導になっている場面が何度か見られた。子ども自身がチャレンジを続けていたり、転んだけれど気持ちは折れていなかったり、失敗した瞬間は、まだ自力でな

んとかしようとしている様子が窺えた。職員が応援の気持ちを込めて声をかけたり助けたくなる気持ちはとても理解できるが、その優しさが何を育もうとしているのかを見極めると、非認知能力を育む機会をもっと多く持てるのではないだろうか。そして、もし困っていたとしても周りの年上の子どもが気づいて駆け寄り共に解決していく場面も更に増えるよう促すこともできる。それは応答的対応により実現しやすくなる。子ども自身に身につけてもらいたい力の中に、自分で何とか解決して立ち直っていくしなやかな強さも含み、更なる保育の質向上を期待したい。

３）子どもの興味関心の移り変わりに対応する更なる遊びの豊かさを目指してほしい

園の造りから随所に意図と工夫が見られ、デザイン性にも魅力ある園である。保育室に設定された遊びの環境においても、ゾーニングによる複数の遊びができるようになっており、それらは子どもの興味関心によって随時変わっていくものになっている。ひとつひとつに意図があるが、より発展性のある素材の豊かさや、STEMなど考える力や組み上げていくプロセスを育む遊びの幅の広さがあると、更に良い物的環境に成りうるように見受けられた。保育者が子どもの自由な関心ごとの移り変わりに対応していくにあたり、予算組みや権限設定のある中で進めていかなければならないのは承知の上であるが、創意工夫により磨きをかけられる職員が多いため、より豊かな遊びの環境設定に向けて職員の自由で柔軟な発想力を発揮できる取り組みを進めていくことに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

事業所名：溝口ピノキオ保育園

・第三者に評価されることの意味の大きさを感じた。
・これまで取り組んできたことを評価され強みを見つけていただいたと共に、それが自信に繋がりより保育への意欲が高まった。
・改善すべき点については真摯に受け止め、今後整えるべきことが明確になった。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり